

## 第2回西播磨新地域ビジョン検討委員会 会議録（要旨）

### 1 日 時

令和3年3月11日（木） 15:00～17:00

### 2 場 所

西播磨総合庁舎 1階 大会議室

### 3 出席者

委 員：谷口委員長、田端副委員長、井関委員、太田委員、長谷川委員、  
三宅委員、久保委員、門田委員、澁谷委員、西嶋委員

代 理：石井係長（松尾委員代理）、八木係長（家氏委員代理）、  
高見係長（池田委員代理）、江見室長（服部委員代理）

本 庁：森川

県民局：遠藤局長、円増室長、神尾、大西

### 4 内 容

- (1) 西播磨県民局長あいさつ
- (2) 兵庫県将来構想試案について  
資料1により本庁ビジョン課から説明
- (3) 西播磨新地域ビジョンの策定スケジュール（案）について  
資料2により事務局から説明
- (4) 西播磨地域デザイン会議の検討状況について  
資料3により事務局から説明
- (5) 西播磨新地域ビジョンの方向性（柱立て）に対する意見交換について  
資料4、5により事務局から説明し、意見交換を実施  
（主な発言内容は以下のとおり）

#### （委員）

ビジョンを見ていて、特に外国人との関係や若者の繋がりについては当町も危惧している。先の国勢調査においても、外国人技能実習生がかなり増えてきているが、彼らにどのような形でこの町に根付いてもらうかは課題の一つ。また、若者が地元に着愛を持ち、外に出ていかないようにすることを重視する今回の西播磨のビジョンには賛同できる。当町では成人式で若者が帰ってくる機会を活用して、フェイスブック等でグループを作ってもらい、地元との繋がりをもう一度持っていただくということを考えている。それにより、カップルができたり友達と再会したりして、町との結びつきを持ち続けることにつながると思う。就職の時などにもこの町に戻ってきて欲しいと考えている。

全般的に良くまとまっていると思うが、1点だけ、西播磨管内の基盤整備についての記載が播磨科学公園都市のみになっている。県道や西播磨の玄関口でもある網干駅の周辺開発についても考えてもらえればと思う。

#### （委員）

方向性や柱立てについては概ねいいと思うが、教育に関係する「未来を創る人づくり」の中に小中学生の記載はあるが高校生がない。高校については県がさらに取り組んでいける部分だと思う。

また、地域医療や河川工事など、市町では取り組みにくい分野を県が施策の中で強みとして取り組んでいただきたい。

#### （委員）

「地域の強みでみんなに選ばれるまち」の関連で、県民の意見や説明にはなかったが、文化や歴史がこの地域の特性であると思うので、この点も踏まえて作っていただきたい。

働き方も様々に変わってきたと思うので、起業の夢が叶うだけでなく、思うような働き方ができるまちを目指すのも一つだと思う。大きな流れは概ね賛同できる。

(委員)

初歩的な質問だが、この新ビジョンを見ていて、誰に向けてのものなのかわからなくなった。行政に向けてのものなのか。

(円増室長)

あくまでも、この地域に住まわれている方や関わっている方が、将来この地域をどうしていきたいかという夢を持っていただき、その実現に向けて活動していただくための指針的なもの。行政が作っていくものではない。

(委員)

多分そうなのだろうとは思っていたが、私は専門的なことがわからないため、一般の母親としてこれを見たがよくわからなかった。一つ一つじっくり見れば大事なことだと思うが、全体を見たときに結局よくわからないというのが率直な感想。

このビジョンは一人一人が意識すべきことであり、そうすることで西播磨が良い地域になっていくというものだと思う。だが、読んでいても自分事として考えられず、行政が何かしてくれるのかなと捉えてしまった。一人一人が自分事として捉えられるように伝える方法が一番大事ではないかと感じる。

私は子育て関係がメインになってくると思うが、指針としては全て盛り込まれていて良いと思う。

(委員)

資料に書かれていること自体に何か言う必要はないと思う。全うなことを皆さん言っていて、西播磨の抱えている課題をある程度包括的に整理されていると思う。しかし、せっかくなら意味のあることをした方が良いと思うので、あえて言うと、個人でできることや地域でできること、社会全体の仕組みのこと、あるいは地域の連携的なことが全て一緒になってしまっていると思う。都市計画が専門のため空間的に物事を考えてしまうが、全く空間性がなく、どのスケール感で何を言っているのかわからない。政治家の発言のようで、自分事でも他人事でもなく、また地域の言葉でもなくなってしまっている。書かれている内容自体は良いと思うが、整理の仕方と伝え方を考えなければ、意見を頂いた県民の方に申し訳ないし、我々の時間ももったいない。そのあたりを一ひねり、二ひねりしないと今の時代の方々には全く意味のないものになるという危惧を感じる。スタート地点として、このまとめ自体は意味がないということではない。ただ、いくら個人の方に頑張ってもらいたとしても、その戦略や整理がクロスか空間か、施策なのか。おそらく施策的にまとめられていると思うが、このように「頑張ろう」といって夢を語っても現実的にはできない。だからみんな困っている。おそらく少しでも頑張ろうと思っている人が、チャンスがあるという事を知ればできることもあるだろうし、一生懸命取り組みたい人はこの地域にいると思うが、どのように何をしてよいかかわからない方が相当数いると思う。そのような方々を元気づける、支援していくことが必要。何でも自立とか、自己責任にしまうと西播磨でやる必要がなくなってしまう。

西播磨地域のビジョンである以上は、共同性や空間的な連携というのが肝だと思っている。県民の方々のご意見は貴重だが、このビジョンであるが故の存在価値を考えなければならない。それぞれの自治体が主張したことがまとめられても、それが何なのかということになってしまいうし、結局誰も何もしてくれないということになるのが目に見えている。整理の仕方を工夫した方が良いと思っている。

(委員)

おそらく、計画の策定においては、最終的な整理の時に、これは公の責任でこれは何々の守備範囲、というような整理も含めて検討すると思うので、先ほどの意見を踏まえて、ここは行政が責任を持ってやっていくということも書き込めるようであれば、そのような整理もお願いしたいと思う。

(委員)

一市民としての意見だが、これを進めるにあたっては、推進するための方策に対して現状は法的な規制もあると思うので、規制緩和も相まってやっていかなければ、理想をいっぱい唱えていても実現できないと思う。「共助」、「思いやり」といった言葉があるが、一人一人に経済的に余裕がないと人を思いやる心も生まれてこない。一人一人の心の部分を大切にしていかなければなかなかまとまらないと思う。

(委員)

全県ビジョンを見ると、コロナの影響もあって「分散型社会で地方回帰」という記載がある。「将来戻ってきたいまち」というのが何年か前の総合戦略にあったが、兵庫県全体のビジョンは、日本中どこに住んでもいいという人を呼び込むような視点が入っているのではないか。西播磨のビジョンにもUターン等の視点に加えて、そういう点も入って良いのではないかと思った。

全県ビジョンの試案の中でもあらゆる分野に AI やロボットという単語が出てくるが、地方こそ高齢者が増えて支える人がいなくなるため、ロボットやAIが必要になるのではないかと感じた。ロボットの見守りやウェアブル端末、スマートウォッチによる健康管理など、産業界だけでなく生活の中にもロボットを加えてもいいのではないかと感じた。第1の夢の「つながる地域の絆西播磨」では、「おせっかいで縁を結ぶ」とあるが、今、価値観も多様化し、なかなかみんなが集まろうとしても集まってくれない時代にきている。若い世代は平日は仕事や学校で、休日は自分の時間があるので、集まる場づくりをしても集まってくれない。この夢に取り組むには、例えば人が自然と集まるところに場をつくるという視点が必要ではないか。

(委員)

このビジョンは、夢の下に目標がぶらさがっているような、ツリー状の構造だが、夢や目標というとメッセージ性だけで終わってしまう可能性がある。夢を実現するためには行動が必要になるため、この柱立てを横に串刺すものが必要になるのではないか。このツリーが縦向きだとすると、横向きに複数の行動例を示せば、社会が複雑化する現代では、一つの行動で分野横断的に目標にアプローチできるので、全ての目標を網羅できると思う。

それから、目標像というと、一つひとつの言葉が西播磨の人にメッセージを与えていくことになる。目標像の「おせっかい」という言葉はポジティブに捉える面とネガティブに捉える面があると思う。私としては、「おせっかい」は世話好きという意味でポジティブに捉えるが、ネガティブに捉える人もいると思

う。これは言葉自体を否定しているわけではないが、言葉が与えるイメージについての議論は必要ではないか。

また、目標像の「あらゆる個性」について、個性を一言で言うと「らしさ」だと思うが、昨今は人種や国籍などを含めて多様な人と関わることが求められるので、個性という言葉だけで片付けられることなのだろうかと思う。

夢の「地域で循環するまち」については、当然今からは地産地消で、地域内で循環できるものは循環させるという視点は必要だと思う。一方で、地域循環共生圏ではないが、兵庫県は五国と言われるように、摂津や淡路などと一緒に共生圏として循環していくという視点が必要ではないか。地産外消という言葉もあるが、せっかく五国があるので西播磨だけで片付けるのではなく、近隣と上手く循環していく視点が重要だと思う。

(委員)

ビジョンは西播磨の総合計画という位置づけだと思うので、当町の総合計画と比較したが、特に欠落している点や足りない点はなかったと思う。そのため、こういうことを重視してもらえたらという視点で話をさせていただく。

少し前から地方創生、地域創生と言われるが、目立つ施策のみが取り上げられることが多い。しかし、町長もよく言っていることだが、人口減少下でも、生活していく上ではインフラを守っていくことが大切。水道料金で言えば、都市部の方が低く抑えられている。西播磨には全国で一番安い赤穂市もあるが、概して過疎地の方が高くなる。また、都市部の人は知らないことが多いが、佐用町ではテレビを見るために毎月500円と消費税を払う必要がある。ネット回線も選択肢が少ない。これらは過疎地特有の課題だと思う。兵庫県としてできることは限られると思うが、特に第4の夢「いきいきと暮らし続けられるまち」において、人口が減少する中でインフラをどう守っていくかという視点は非常に重要になるのではないか。

また、縁結びや結婚の支援に関する県民意見がなかったように思う。県民局でも取り組まれていると思うし、当町も支援員がいて取り組んでいる。今年の秋、コロナが少し落ち着いた時期に姫路でイベントをしたが、男女12名ずつの合計24名で募集したところ、合計100名以上の申込があった。恐らくこの時期は他で同様のイベントがなかったためだと思うが、それだけ結婚をしたいという人が多いと感じた。そういったこともどこかに書き込んでいただければと思う。

交流人口についての意見は多数見られた。県民局でも、局長の強いリーダーシップで山城関係のことを非常に熱心に取り組んでいただいている。当町でも県民局の上質ガイドの養成講座をしていただいている。昨日も当町の山城ガイド協会設立についての打合せがあったが、民間からも元気のある新たな動きが出てきていると感じた。局長の挨拶でも元気の出るような明るい話題をとという話もあったし、委員からはもう少し読みやすいビジョンになればという話もあった。そこで、文章ばかりではなく、例えば当町の空き家を活用したグラミンカのような、管内市町の元気のある動きの芽も紹介すれば、誰もが見やすいビジョンになっていくのではないか。

(委員)

これは誰向けのものなのかが一番気になった。通常の行政計画であれば行政が読み手となるが、ビジョンはそうではなく、一般の方を想定していると思う。そう考えるとあまりインパクトがないと思う。将来構想試案では地域ビジョン

は少し尖ったものを描くというようなことも書いてあるので、もう少し尖らせていくことも必要ではないか。

一方、様々な意見があって、こういう将来像を目指していくんだという内容を書く必要もある。そこで、伝え方を工夫した方がいいと思う。一つ目は言葉についてだが、文章で伝えていく場合、言葉が重要になってくる。行政や学識者は堅い言葉を使いがちで、抽象的な言葉で様々な意味を伝えようとしてどんどん言葉が抽象的になっていく傾向がある。言葉を工夫する時に、例えば、コピーライターのような、言葉を駆使してビジネスをしているような人の力を借りることも必要ではないか。一つの言葉をとっても、インパクトがあるように変えていくことが必要だと思う。

もう一つは、これが一般の人向けであるとする、一般の人に何を伝えたいかということ。もちろん30年後の西播磨について考えてもらうということだと思うが、そのことを分かりやすく伝えるためにはどうしたらいいか。一つのアイデアだが、ビジョンを2部構成にして、今回の叩き台を第2部にして、第1部を全く別の形式にするのはどうか。実現性は低いかもしれないが、第1部を小説にするのも一例。主人公は西播磨に住む小中学生や高校生で、主人公が高齢者等と会話をするようなストーリーはどうか。無理は承知で言っているが、小説が面白くてつい読んでしまって、これはどういうことなのかと思って第2部を見て理解してもらおうようにするのも一つの手ではないか。行政文書としては全くあり得ない発想だと思うが、まずは興味を持ってもらい、西播磨という地域を考えてもらうためには、今までにないやり方も必要ではないか。

(委員)

資料を見て、ブレインストーミング的にいろんなところで聞いた意見を上手く整理しているという印象を受けた。さらに属性的な情報があればもっと理解しやすかった。例えば、どの地域のどの年代の人がどう思われているのかという情報があれば、最初の段階の情報としてはよかったのではないか。

これらの意見で、地域の目標や方向性、課題などが浮き上がり、非常に良いものになっていく期待はある。しかし、実際にそれを政策として実現していくためのロードマップや具体的な戦略が現実とあまりにもかけ離れている部分があり、なかなか見えてこないという問題点もある。これから必要なことは、課題を整理し、それを解決できない原因は何なのか、どうすれば解決できるのかを順序立てて戦略化していくことではないか。かなり具体的な話になるが、一度外に出た人で帰ってきたいという人がどれくらいいるのか、帰ってきたいという人でも、帰ってこられない理由は何なのか。そのような具体的な情報が必要。また、逆に地域から出ていく人が何を求め、何が足りないから出て行くのか、といった調査や情報が求められると思う。これらを通じて上手く戦略ができれば、戦略に優先順位をつける、あるいは場合によっては諦めざるを得ない、解決できない戦略もあるかもしれないが、それらを具体化していく必要がある。

様々な意見の整理の仕方として、SWOT分析をしてはどうか。SWOT分析は主に経営戦略で使われる分析方法で、地域の強みや弱み、機会、脅威を整理し、それをクロスさせて戦略をつくるもの。そういうものを使えば具体的に地域としてどういう戦略でどう考えていくかができあがっていくのではないか。さらに、戦略というのは一度立てたら済むものではない。時代の変化は非常に速いため、今後どんどんPDCAサイクルをつくり、変えていくことが求められてく

と思う。

最後に、立てた戦略の分担も考えないといけない。このビジョンというのは、あくまで地域で考えていくというもの。しかし、ほとんどの戦略は市町村で実際に実行されるべきものになると思う。市町村でやるべき話を大きな地域で考えていることの意味は、やはり地域として全体の方向性を一つ決めてしまえば、スケールメリットが生まれてくるということだと思う。人口が減っていく中で、たくさんの人たちに動いてもらえるというメリットが生まれる。あるいは地域全体のイメージ戦略にもつながる。このあたりが、市町村もメリットを感じてその戦略に乗ってもらえるような、実際に動けるビジョンになるかどうかを左右すると感じている。

(委員)

県民の皆さんの意見は非常に重みがあって、よく沢山の意見を聞き取っていると感心して拝見した。その中で、委員によってはもどかしいなという部分も感じておられると思うが、大学の教員は高度化をして分かりやすくすっきりとさせて、詰み将棋みたいな感覚でやっている部分があるので、皆さん少し厳しめに言っておられる。私もいくつかのビジョンや計画づくりに参画し、それぞれレベルというか、対象とするターゲットをどこまでにし、どういうことを言うかというのは、それぞれ違っている。私の場合は、地域や集落の具体的な計画づくりをターゲットにしているが、地域ビジョンとなると、ある意味総花的なことを書かないといけないが、どこまで具体的に書き込めるか。要するに、いくつかの意見の中から代表選手としてテーマを決めているとなると、それぞれの夢が最大公約数的に出てきているので、除外される意見も出てくる。共通部分は書かざるを得ないと思うが、ここで頭出しをするというのは、西播磨のオリジナルの色が強い特徴的なものを色濃く出していくことで、差が出てくると思う。おせっかいが特徴なのか、そういう見方で少し色を付けた方がいいのでは。

夢や将来像の方向性を示すという考え方でいけば、他の委員が小説の話をされたが、私が20~30年前に岐阜県で地域づくりに初めて関わったとき、子どもたちに将来どんな地域に住みたいかを絵に描いてもらい、そこから要素を抽出したり、逆にこちらから提案し絵にしたり、そんなプロセスを持ったことがある。今から思うと面白いことをやっていたんだなと思ひ出す。

一番役に立ちそうなのが、将来構想試案だと思っている。時代の最先端の話が網羅されており非常に面白く、これを西播磨でやるとすれば、試案のどの項目、どういう要素が西播磨で生きるのか、うまくかけ算することによって、より西播磨らしい地域の方向性とか色とか、そういうものが見えてくるのではないか。その方が県民に分かりやすく突き刺さるメッセージ性が出ると思う。

一つ一つが悪いということではなく、まとめ方、工夫で違った面白さが出てくると思った。

(委員)

ビジョンって何なのというところが、皆さん少し腑に落ちていないのかなと感じた。他の委員がおっしゃったように行政計画であれば行政論からいうと外れていることになるし、別の委員からはビジョンがあって戦略があって個別の政策があってという、いわゆる計画のフォーマットとは少し違っているというご指摘があった。また、別の委員からビジョンというものはこのようなものという話をいただいたが、私もそういう見方である。

もともと県の長期総合計画では、県民が作るものと行政が作るものの2つがあり、ビジョンは県民が作るものとなった。2つ前の21世紀ビジョンから県はそういう方法を取り始め、前回のビジョンづくりの時に各地域で県民に夢を語っていただく夢会議方式を取った。それが今のビジョン委員会に繋がっていくわけだが、前回、各地域で作ったビジョンを寄せ集めたものが全県ビジョンで、これで県の総合ビジョンなのという議論があった。前回の課題を解決するために、今回は将来構想試案を作り、カタログにするという方法を取ってきたんだと私は見ている。

もう少しビジョンというものを共有した上で、他の委員の解釈の最大公約数的なものを揃え、この西播磨地域に一番端的に表れているものを柱にして整理しているというのが今日の議論の流れかと思っている。

その上で、私自身、先ほどの事務局の説明を聞きながら思ったことは、県民の意見をまとめた4つの夢が、この西播磨にとってどういう位置づけなのか、単に4つ並んでいるだけではなく、ストーリーがあると思っている。

共助はキーワードとして強調されており、西播磨は共助のまちというのがまず出てきている。

2番目は、地域資源を活用できるようにするためには人の流動性がある。西播磨は人口が少ないため、流動してもらわなければ何も出来ないから流動性があるというのが2番目。流動性によって西播磨に色々な資源があるからそれを活用してイノベーションしてくださいというのが2番目だと思う。

3番目はストックだと思う。ストックをどう活かすか。フローではなくストックを循環させてストックを維持させていく。西播磨には森林はじめ自然を中心とした色々なストックがあるので、それを活かしていかなければならないんだ。SDGsなど2030年頃おそらく人類に定着するであろう新たな価値観に沿ったストックが西播磨にはある。これを使って地域経済を動かしていきましようということだと思う。

最後4番目はコストの低減だと思う。田舎はコストがかかるという話があったが、都市部が高いのは地価だけで、経済効率性からいうと人は都市から逃れられない。田舎の物価は安いと言われるが、手に入れるためにコストがかかる。ハイテクを使ってコストを下げられないかというのが最後だと思う。

他の委員の言われるスケールメリットは無視した個人的な解釈だが、西播磨を象徴するようなものであって、そういうものに整理されてきたと思う。あとは課題があれば課題を解決しなければいけないし、その方向へもっていくために何がいるのかは、今日はまだここでは入ってきていないという議論だったと思う。

(遠藤局長)

色々な切り口で、多方面から貴重な意見をいただいた。我々では気付かないようなご指摘もあった。今日の4つの夢はたたき台なので、これから委員のご意見もいただきながら、分かりやすく伝えやすいものにしていきたい。

4つのキーワードについて、今日の冒頭説明では伝わりきれなかった部分があるので、補足説明させていただく。

西播磨として地域ビジョンをどう考えるかということについて、他地域との相対的な部分を考える中で、西播磨の強みと弱みを考えた時、第1の絆は、西播磨の強みだと思っている。参画と協働を標榜している兵庫の中でも、西播磨は地域活動をされている団体が多く、私からすると沢山の方が地域の活動に参

加され、地縁が濃いと感じている。

2番目は、強みがある一方で、裏返せば元気ではないから元気にしたいという思いがある。人口減少は他地域より早く進んでおり、進学等若い学生がどんどん出ていっている。戻ってくる者が少ないという問題意識もある。

3番目は、強みと弱みのどちらにもとれる。兵庫の中でも西播磨は多様性のある地域であるが、丹波の黒豆とか淡路のミルクや柑橘類のような、これという切り札がなく、広く薄くというところがあって目立っていない。一方で安全保障に繋がる食糧やエネルギー問題では、エネルギー自給量や土地の自由度など、これについては強みがあり、自分たちで自立できるというところに繋がっていくのではないかと。前回申し上げたように、日本はコロナ禍において先進国でマスク一つ供給できなかった。地域で揃えられるものはまずしっかり回して、足りないところは隣の地域、そして全県、全国というように地域循環共生圏に繋がっていくわけだが、西播磨は他地域に比べて自立性が高い地域なんではないかというのが3番目。

4番目は弱みになるが、例えば医師の数が全県の中でも少ない。全県平均10万人当たり260人のところ、西播磨は160人程度。人口密度が低く面積が広いので、移動のコストもかかる。防災面では、山あり海ありということで、土砂崩れや高潮の危険性もある。また、山崎断層という地震のリスクもあり、安全安心はしっかり取組まなければいけないということ。

相対的な強みと弱みというのは、この4つのキーワードの中には我々として意識しながらたたき台として出した。これがいいとは思っていないので、委員の意見で他にいいキーワードがあれば見直していきたいと思っている。

(委員)

特に行政以外の委員の発言で、誰に対するものかということのもあったし、分かりやすくということもあった。今後のまとめにあたり、分かりやすく、あるいは尖ったというか、メリハリをつけるというか、県民に読んでもらえるような纏め方をしていただければと思う。他の委員が言ったように、もう少し整理するような工夫をしてほしいというのは私もそのとおりかと思う。長谷川委員が言った課題から入って強み弱みを含めてという手法は有効かと思うので、今後骨子案を見直していく際には、ここにこの項目を設けた根拠は何か、こんな課題があるからだとかある程度分かるような形で考えていただければと思う。先ほど局長から説明のあった夢を聞くと、課題解消型あるいは課題対応型の柱と、願望実現型の柱があると思。混在してはいけないことはないが、こういう意図をもってより伝わるような形が有り難いと思った。

その上で方向性の部分で若干気になった点として、例えば、子どもに関してほとんどの記載が「子育て」という言葉だが、子どもは5歳になってからは勝手に育つ、「子育て」ではないかと思っている。子どもが育っていくのを地域や家庭がいかに支援していくかということ。子育てという主体は子どもではなく周りとなる。子どもに関する部分は子どもが主体なんだと匂ってくるような表現がよい。

本庁のビジョンや自由意見の集約もそうだが、自由に動けるとかそういう発言があったが、健常者の方の視点によるところがあるので、動けない人が読んで、わがまちのこととして感じてくれるところが盛り込めればいいかと思う。福祉が専門の私から言わせれば、西播磨は施設銀座だと思っている。かつて基盤整備をしていく中で都市部では土地がないため、西播磨と丹波を中心にどん



どん施設を建てているはずである。弱みではなく、施設には働く職員がいるので、若い人が循環するというか、施設は永久エンジンを持っている。こういう地域の施設の職員、もっといえば入所者が全く地域と交流せずに存在し続けるよりも、もっと活用方法があるのではと思う。

最後に、資料の端々に「女性が」という言葉が出てくる。女性が輝くということをいつまで言い続けたいといけないのか、もっといって言い続けてもう何年経つのか。ビジョンとして10年後には男性が女性がとか、そんなことを言わない社会になっているというような持っていき方もありかなという気がします。